

平成 28 年度

華服飾専門学校

自己評価・学校関係者評価報告書

基準項目ごとの学校自己評価

基準1 教育理念・目的・育成人材像

自己評価結果

学園の「建学の精神」に則り、理念・目的・育成人材像は明確に定められ「学則」において明文化されている。育成人材像は、「時代の求める職業人」であり、服飾関連業界等が求める知識・技術、および社会人基礎力等、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会の提言を取り入れて定めている。専門知識、技術はもとより社会人基礎力（主にコミュニケーション能力と主体性）を高める為に、アクティブラーニング、オリジナルプランニング等を取り入れ、特色ある教育活動に取り組んでいる。平成28年度に学園創立70周年を迎え、将来を見据えた中期3ヶ年経営計画を策定して、『学生第一』主義のもと、学園本部機能の強化、教育システムの充実、教員の資質向上、学生のための設備の検討の4本柱を示した。それを平成28年度の重点目標、具体的な活動計画に落とし込み活動した。

基準2 学校運営

自己評価結果

理念、育成人材像を踏まえ、教育方針の実行、華ブランドの構築、教育システムの確立を運営方針として校長が定めている。中期3ヶ年経営計画および前年度の事業計画の実施状況、その反省に基づく改善を行い、重点目標を踏まえ事業計画を立案している。その進捗状況に関しては、定例会で確認をして、推進会議で報告をしている。予算は事業計画に従い稟議書を作成して、経営会議の承認を経て執行している。学校法人における理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切に行われ、必要に応じて臨時会議が行われている。学校における運営組織は明確化され、組織として整っている。各部署、各人の業務分担の明確化が重要で、別途各人の業務分担表を作成しているが、業務分担表に従って業務が完全に行われているとは言えない。給与に関しては「華学園給与規程」に基づき運用している。従来は月給制による定期昇給制度から、より適正な年俸制による新たな制度への見直しを行う。意思決定に関しては稟議が行われ、決定の課程は稟議書として記録している。承認がおりた段階で起案者に連絡されるシステムが確立されている。現在の情報管理システムに関しては各校、各部署で別々に管理しており、合理的かつ一元的な管理ができていない。今後は志願者から在校生、卒業生に至るまで、一貫して管理できる情報管理システムを構築し業務を効率化する。平成29年度より運用を開始していく。

基準3 教育活動

自己評価結果

教育理念を基に、関連業界の方で構成される教育課程編成委員会での提言を受けて、教育課程を編成している。また『ADDIEモデル』の評価基準書をもとにH29年度からのカリキュラム見直しを行い学則変更した。学科・コース毎に評価基準書を策定し、評価基準書に準拠したシラバスに教育到達レベルを明記している。また単元の授業に関しても達成度確認方法を明記している。運営方針、教育方針を教育理念に沿って定め、教育課程を編成している。将来の職種を見据えて学科毎、コース毎に科目の設定やそれぞれの授業コマ数を設定している。関連業界の方で構成される教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会において、意見の聴取や検討を行い、教育課程に反映している。また企業の方との懇談会等も実施して意見を聞き教育課程に反映している。具体的には、専門科目に関しては基礎知識・技術の習得、それ以外で社会人基礎力の習得・向上が重要であるとの多数の意見があり、それを反映した教育課程を編成した。キャリア教育に関しては、就職ガイダンス、一般常識、ビジネスマナー等を実施している。さらに社会人基礎力向上のための科目を強化している。具体的な科目としては、「アクティブラーニング」「オリジナルプランニング」の2科目でグループディスカッション等のコミュニケーション能力の向上や主体性の育成を目的とした授業内容である。今後更なる強化のためにLIFOプログラムを導入する。授業アンケートに関しては『ADDIEモデル』の①評価基準書作成、②カリキュラム編成、③シラバス作成までが終了。授業評価はその4段階目にあたり、実施方法は検討したが、実施は出来なかった。実施方法を含め平成29年度実施する。成績評価基準は学則に明記して学生便覧にも明記している。科目毎の評価の詳細はシラバスの評価方法に記載して実施している。取得目標の資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられており、関連する授業科目、特別講座の開設等も明確にしている。資格・免許取得のための事前授業や指導体制は整備されており、補習等の不合格者への指導体制も整備されている。教員については専修学校設置基準の資格・要件を満たす教員を確保している。また、授業担当要件については、履歴書

(専門性と担当科目も記載)、必要資格の確認及びその写しも管理している。教員の資質向上のため、関連業界と連携して研修を実施しているが、さらに業界で求められる知識、技能習得、教育力・指導力の質向上が必要である。必要なセミナー等への参加を促すと同時に、自己啓発で向上を図るよう指導している。3校合同の教員発表会を8/25、3/25の2回実施した。初めての試みであったが、非常に良かった。教員の組織体制に関しては分野毎に必要な教員組織の体制を整備し、業務分担・責任体制等は組織図等で明確に定めている。今後は校長、教育部長、学科長というラインにより種々の事を決定、伝達、実施していく。

基準4 学修成果

自己評価結果

就職希望者に対する就職率は100%である。担任とキャリアセンターが連携し、学生の就職状況を把握している。就職活動の早期化に伴い、就職に対する早期意識付けを目的として、1年次12月から就職活動の為の研修を実施している。また就職ガイダンスの授業を1年次後期より実施している。また、就職先として主要企業を15社設定し、企業との連携を図りながら就職活動支援を行っている。合格率も主要企業は87%となったが、その他企業は60%と低く全体の合格率向上が課題となった。また必ずしも希望職種への就職は出来ておらず、その実現の為の育成・指導が今後重要と考えている。取得目標の資格はコースにより異なり、各資格・免許の取得率は、合格実績と全国平均とを比較し、取得目標を決定している。合格率を上げる為の特別講座も開設している。技術系の検定は合格率も90%以上であるが、全員受験のファッションビジネス能力検定、ファッション色彩能力検定は合格率60%前後で、合格率を向上させる対策が今後の課題である。具体的にはファッションビジネス能力検定は、1年次の12月に受験させている。そこで不合格の学生は2年次の前期選択授業を受講させ(希望者)次回の検定試験に再チャレンジさせている。色彩検定対策は外部講師の為相談、検討する。昨年度、平成25年度及び平成26年度の卒業生の就職先企業に対し、「卒業生評価アンケート」を実施し、学修成果の把握と卒業生の在職者の状況調査を行った。今年度は離職状況のアンケートを実施して、離職率、離職理由等を把握した。また平成29年度に過去3年の卒業生の就職先に対して在籍調査と、教育に対する要望のアンケートを実施した。

基準5 学生支援

自己評価結果

毎週火・木曜日の朝、担任とキャリアセンターで意見交換を行い、求人情報の共有や希望者の有無等の情報共有を行っている。関連業界と連携し校内企業説明会を実施している。また就職指導(就職ガイダンス)の授業を設け、就職活動の流れから、実際の受験対策の指導(グループディスカッション、面接指導等)を行っている。受験先が決定したら、受験先に合わせた受験対策(面接指導等)を行っている。学生の出席状況に関しては毎日の出欠を担当が確認し、教務担当に報告を行う体制である。さらに月単位で学生の動向を報告書にまとめ、欠席や遅刻が目立つ学生は担任が面談を実施し学生個人カルテに記載して、指導経過記録として情報共有して活用している。まずは担任が個人の動向・変化をいち早く察知することが最も重要である。今年度退学者3名(前年度8名)と減少はしたが、今後更なる退学率の低減に向けた取り組みを行う。退学理由の中でファッション以外への進路変更が増加している。その対策としては教育方針にも掲げたようにファッションの楽しさ、魅力を伝えていく。学生相談の対応窓口は担任としている。その内容は担任が指導記録(個人カルテ)に記録して、教員間、キャリアセンター、今年度より外部講師とも情報を共有して活用している。就職、学費については専門の担当者を置き、指導記録で情報共有し対応している。学費に関しては学校独自の特待生制度を設けており日本学生支援機構奨学金や各種教育ローンについては担当者が個別に対応している。奨学金制度・教育ローンについては入学案内に記載し入学前から周知している。学費納入に関しては分納制度を設け、個別の事情にも応じている。学生の健康管理については学校医を選任し、学校保健法に基づき年1回4月に健康診断を行っている。遠隔地から就学する学生に対しては、関連企業と提携して寮を確保している。管理面においては、寮に常駐している管理人から定期的な報告を受け、生活指導に活かしている。経済的負担の軽減のための寮利用対象の奨学金制度がある。課外活動に関しては外部のファッションショーへの参加等については学校で把握し、支援を行っている。保護者に対しては保護者就職相談会を開催しており、教育活動の発信や就職相談等を行っている。学力不足や心理面の問題がある場合は、保護者と連携し保護者面談を実施している。緊急時の連絡体制も確保している。社会人への教育環境に関する特別な配慮は行っていないが、社会人入学者にも対応できるカリキュラムを編成しており個別相談に応じている。

基準6 教育環境

自己評価結果

設置基準、法令の基準に準じ、且つ教育上必要な設備を完備している。図書室においては、専門書の他にファッション誌の購入も行っている。学生の憩いの場として学生ラウンジを設けている。また、今年度より教育設備、機材の「見える化」の推進を重点目標として、設備の充実を図っている。今年度はファッションショー用の音響、照明設備の入れ替え、写真撮影スタジオ機材購入・常設、Tシャツプリント機材購入・常設を行った。順次来年度も推進する。企業の現場見学（縫製工場、プリント工場等）・展覧会見学等、『実践教育の推進』を教育方針にも掲げ実行した。学生も興味を持って参加して効果があった。ただし、2年次に偏りすぎたことが課題となったので今後改善する。インターンシップに関しては受入れ先企業の指導者と事前に打ち合わせを行い、教育効果を高める実施体制の構築を図っている。インターンシップ先の企業には学生の評価を依頼し、評価を教育活動に反映している。ただし、現在インターンシップは正規の授業として教育課程上の位置づけはされていないので単位を与えられるよう単位制の導入を検討する。防災に関しては学園事務局を中心に防災体制を構築し、マニュアル化している。年2回避難訓練を実施している。毎年新入生には防災グッズを配布し、飲料水、食料等の防災用品の備蓄を行っている。全ての校舎の耐震化を行い緊急地震速報の設置をして法令に基づき、消防設備の点検、特定建築物検査を実施して指摘事項は改善を行っている。安全管理では、不審者対策として、受付での入退館チェックを行っている。夜間は人的、機械警備の両方を導入し、学校財産の保全に努めている。授業中の事故や怪我については、対応マニュアルを策定し対応している。

基準7 学生の募集と受入れ

自己評価結果

高等学校の進学説明会に適宜に参加し、情報提供を行っている。入学者用パンフレットと募集要項を作成し、情報提供を行っている。また模擬授業も高校に出向き行っている。東京都専修学校各種学校協会の自主規制を遵守し、募集を行っている。志願者には専用窓口（入学相談室）を設け、適切に対応している。華の強みを在校生、卒業生へのアンケートで把握して、パンフレット、ホームページで『華が選ばれる7つの理由』としてアピールしている。入学選考基準、方法は規程で明確に定めており、募集要項に明記している。合否判定は入学選考委員会において、適切、公平に実施されている。学科毎の募集状況、合格率、辞退状況、出願者の成績等を活かし授業方法の改善を図っている。具体的には基礎学力の劣っている学生が多くみられるため、入学後基礎学力試験を行いそれを把握して、一般常識の授業で対応している。学納金の算定にあたっては消費税の変化、社会状況に鑑み、算定を行い、最終的に理事会の承認を経て決定している。在学中の学納金については全て募集要項に明記し、追加徴収がないよう心がけている。また教材費は別途徴収している（募集要項に明記）。入学辞退者への返還金については、文部科学省の趣旨に基づいて募集要項に明示し、適切に取り扱っている。

基準8 財務

自己評価結果

財務基盤を安定に保つため応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握し、収支の均衡を保つため、学費改訂や設備投資を含めた継続的な経営改善に取り組んでいる。財務分析は顧問の公認会計士の指導を受けて各種資料を作成し、その内容や数値に関する情報およびその推移について把握することを十分に心がけている。予算計画の主要部門である学園総務部の人員を拡充して機能を高めるとともに、各学校教務部との連携を深め、単年度予算および中期計画を策定している。予算編成および予算執行全般について、さまざまな改善を実施したことで無駄な支出を防ぎ、経費節減が図られている。顧問の公認会計士により、総務部経理係に対し、日常および決算書類作成の会計指導が行われ、監事による会計監査に臨んでいる。私立学校法における財務情報公開の基準に沿って、ホームページでの公開や希望者への閲覧体制を整えている。

基準9 法令等の遵守

自己評価結果

学校教育法のもと、専門学校教育に関する各種法令、専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。法令に基づく個人情報の取り扱いは適切に行っているが、規程整備にまで及んでいない。学生、卒業生データを電子化し保存しているので古い

PCのリプレース、ウイルスソフトの完備等を行い一定の保護策を講じている。日常業務での個人情報取り扱いについては、個人責任を負うところが多い。今後は現在進めている学生システムの確立により実施する。自己評価について規程を定め実施している。学校点検委員会を設置して、その内容を精査して、学校関係者評価委員会に送り、評価結果については、改善に取り組んでいる。自己評価の結果は文部科学省のガイドラインに則り、ホームページで公開している。学校関係者評価委員の選任に関しては、学校評価ガイドラインに基づき、必要な委員を選任している。評価結果については、経営層に報告し、改善に努めている。評価結果を取りまとめ、ホームページにて周知している。職業実践専門課程の規程に基づきホームページにて積極的な情報公開に努めている。

基準10 社会貢献・地域貢献

自己評価結果

地域貢献では台東区教育委員会主催のキャンパスプランニング事業に参画。台東区立の小学校に職員を派遣し、6年生を対象に台東区の主産業である皮革を使用した実習を行った。また10月に上野松坂屋主催のハロウィンパーティーのイベントで国際理容美容専門学校とコラボして、ファッションショーを行い一般の方に楽しんでいただいた。国際交流については11月に希望者を募り、海外研修を行い、イタリアのアパレル工場、プリント工場での研修を行った例年、2月の学園祭においてチャリティーイベントを実施し募金活動を行っている。また、学校周辺及び最寄り駅付近の清掃を年間通して実施している。

学校関係者評価委員からの主なご意見・対応等

<教育理念・目的・育成人材像について>

(意見)

専門学校なので、知識技術は当然で社会人基礎力の養成はすばらしいです。

<教育活動について>

(意見)

技術指導と社会人基礎力の養成は別々でなくほぼ同時に身につくと思います。コミュニケーション力のある人は打たれ強いと思います。

(意見)

授業評価の実施・活用方法の検討はしたが今年度は実施できなかった。出来なかった最大の理由は何だったのでしょうか。実践しながら精度を高める方法が取れなかったのはなぜでしょう。

(対応)

授業評価方法は幾つかあり、それぞれ良い面、悪い面があり決定できなかった。平成 29 年度後期よりまず自己評価から開始する。

(意見)

学生の質の向上 学内活動は責任感を伸ばすツールでより多くの機会を学生に与えたらと思います。

(意見)

教職員の資質向上 教員発表会 まずは同僚・仲間からスタート そしてそこでの学習 明日の糧になる取り組みに感じました。これが土台のような気がします。この土台の上に初めて外に目を向ける事が出来ると思います。

(意見)

カリキュラムの編成に関して LIFO は当社でも導入、研修時に使用しているが、チームワークの向上にも良い。ただし自分の事だけを理解するのではなく、相手、チームの結果も共有し相手を知ることも必要である。

(対応)

担当教員が LIFO の講習会を受講終了しており、6 月末までにシラバスを作成し後期より授業を開始するもので、そこで意見を反映する。

(意見)

社会人基礎力の強化を是非して頂きたい。四大生と競った時に面接は通るが、基礎力が低いと研修時から入社後も成長が遅い。年齢の高いお客様と対話ができない為、力をつけて入社して頂きたい。

(対応)

社会人基礎力の更なる強化を平成 29 年度の重点目標・活動計画にて実施する。

(意見)

社会人力に加えて「人間性」のある人材の教育をお願いしたい。また、学生さんの強みを先生がさらに理解して向上させてあげるのが良いと思います。

(対応)

新たに LIFO プログラム平成 29 年の後期より開始（自分の強みを知り自信をつけさせる）する。

<学修成果について>

(意見)

パタンナー志望が少ない事に驚いた。育成体制のある企業であれば 2 年制でもチャレンジしてほしい。

(意見)

就職率100%達成 職種に偏りがあつた(販売職・縫製技術職への偏重)。「偏重」があるのは素晴らしい事だと思います。もっと深く追求したらと思います。No1になったらと思います。特徴がある事が優位性になるのではないのでしょうか。

(対応)

販売職と縫製職を強みとして、学生の希望があるデザイナー、パタンナー、スタイリストへの対策も行っていく。

(意見)

就職後の経過を検証できればデータになると思います。デザイナー希望で販売職に入りその後どうなったか等。

(対応)

キャリアセンターで在籍調査を行っており、把握している。

(意見)

就職を希望しない学生が多い様に感じます。また、説明会時にも消極的な学生が多いので、1年次の早いうちから就職活動への意識付けがあると良いと思います。

(対応)

早期意識付けの対策を行っているが、個人差の問題があり課題となっている。まだこれといった解決策が見いだせていない。引き続き検討する。

<学生支援について>

(意見)

アルバイトは学業に支障をきたすので学生への対処が課題となるが社会性を身に着ける為の活動なので遅刻等の救済策を考えたらと思います。

(対応)

アルバイトの奨励(特にアパレル関係)は引き続き行う。遅刻などの救済策は今後検討する。

<学生の募集と受入れについて>

(意見)

- ・パンフレットは見やすくていいです。高校生の為にも学費はおさえて下さい。
- ・入学者に魅力ある学校作りに関しては積極的に取り組んだ様子がはっきりと分かります。少しでもいいところをアピールする事が大切だと思います。
- ・ブランド価値を上げるには、外に向けて宣伝を兼ねたイベントが必要です。合同ファッションショーはぜひ実現して下さい。WEB発信も効果が高いです。HP、YouTubeなど。

<社会貢献・地域貢献について>

(意見)

- ・他校とのコラボは素晴らしいです。ワークをして力をつけた学生さんが外にでる事はとても大切だと思います。
- ・ハロウィンパーティー(他校とのコラボ)など小・中・高校生を集めアピールする事はとても良いと思う。
- ・他校とのコラボはコミュニケーションの向上にも良いと思います。